

経験による達成感こそが キャリア教育で大切なこと

日々、軽妙なトークで生徒たちを笑わせ、楽しませている小島喜興徳先生。
キャリア教育の第一人者としての思いや授業へのこだわりについてうかがった。

教師になって以来、どの赴任校でも進路指導を担当してきた。例えば地域のNPOと連携して職業人インタビューを行ったり、大学生たちを招いて語ってもらうなど、学校ごとの特色に合わせたキャリア教育プログラムを作って実践してきた。

「どの学校でも“働くことを楽しんでいる大人がいることを知ってほしい”“何かを経験し、達成感を味わってほしい”という思いは共通していました。特に高校在学中に、一つのことにごodawり、突き詰める経験をしてほしいという気持ちが強くあります。その経験があれば、将来、目指す分野が変わっても自分で前へ突き進んでいけるからです」。

進路は学校の中でも、おもしろい仕事だと小島先生は言う。「一緒に悩んで、結果や成果が出れば、一緒に喜べるでしょ。教師の仕事のいいところ取りですよ(笑)」。

バカな話で、 コミュニケーション

国語の教師としては「書く力」と「話す力」を身につけさせたいと思い、授業に取

り組んでいる。「この2つはほかの教科でも生かせる大切な力です。例えば、『山月記』を学んだ後、何かに変身する物語を書いてもらったり、好きな本や詩を紹介し合う授業をしたり。クラスメートが何を考えているか、何が好きかを聞くことで共通理解が生まれ、盛り上がるんです。小グループにまとまりがちな生徒たちが、交友関係を広げるきっかけにもなっています」。

自分がおもしろいと思ったことはすぐ生徒に話したくなる。それゆえ授業も脇道に逸れることが多い。「先日も最近ハマっているギリシア神話について熱く語ってしまいました(笑)」。しかし、おもしろがって話すことで、生徒は次にどんな話が飛び出すかと楽しみながら授業を受けるようになる。

「生徒のそばに寄り添って、いかに力を伸ばし、やる気を引き出してあげるか…。それが教師として一番大切な仕事。だから、お堅い話ばかりしないで、バカな話もしたほうがいい。授業中もそれ以外も関係なく。そのほうが生徒ものびのび力を発揮してくれるようになると、私は思うんですよ」。



神奈川・県立弥栄高校
進路グループ 総括教諭
小島喜興徳先生 (54歳)

1959年神奈川県生まれ。私立日本大学高校卒。日本大学文学部国文学科卒、同大学院文学研究科国文学専攻修士課程修了。84年より神奈川県立田奈高校に赴任。新羽、深沢、厚木西などを経て2012年度より現在の弥栄高校へ。神奈川県立高等学校進路指導協議会常任理事も務める。担当教科は国語(現代文・古典)。



担当する古典の授業で「百人一首から好きな歌を選び、その歌をもとに絵を描こう」と課題を出したところ、こんなすばらしい作品の数々が集まった。

fan message



様々な学校で進路指導を経験されているので、本校の進路グループの運営にも迷いがありません。職員同士の人間関係も大切におられ、私のような血気盛んな若手教員にも優しくアドバイスをしてくれる、非常に頼りがいのある大先輩です。(進路グループ 能美悟先生)